

●アミロイド PET/CT 検査についての説明書

【検査の方法】

- ・この検査は放射性同位元素で標識されたアミロイドイメージング剤を静脈注射し、90分の安静後、約20分間頭部のPET画像とCT画像を撮影します。検査は撮影中に安静に寝ているだけで終了します。

【使用するお薬：なにがわかるのか？】

- ・18F-フルテメタモルと呼ばれる、微量の放射線を出す診療用の薬を使います。18F-フルテメタモルを注射すると脳内に沈着したβアミロイドを可視化させ、蓄積の程度がわかります。この検査は、アルツハイマー型認知症の診断に有用な検査の一つです。

【副作用について】

- ・**血圧上昇、悪心、胸部不快感、頭痛やめまいが現れることがあります。**非常に稀ですが、呼吸困難など生命に関わる重篤な症状が出ることもあります。症状があるときはすぐにお知らせください。

【安全性と危険性について】

- ・当院で使用するアミロイドイメージング剤は、日本メジフィジックス株式会社にて製造された放射性医薬品 フルテメタモル（18F）注射液 ビザミル®静注を用います。
また、当院は日本核医学会が定める認証（アミロイドイメージング剤を用いた脳PET撮像の「PET撮像施設認証」）を受けており、撮影は日本核医学会「アミロイドイメージング剤を用いた脳PET撮像の標準的プロトコール」に基づき検査しています。
- ・放射線被曝はできるだけ少なくするのが原則的な考え方ですが、患者様が受ける利益（病気の正確な診断や最適な治療法を選択できるなどの利益）が、放射線被曝による害を上回るとの医師の判断のもと検査を行っています。**アミロイドPET-CT検査による被曝線量は胃透視（胃バリウム検査）とほぼ同程度で、身体への影響はありません。ガイドラインに準じて線量の低減に努めておりフルテメタモル線量は約5mSv（ミリシーベルト）、CT撮像は通常2~3mSvです。**この程度の被曝線量では放射線障害は起こりません。癌や白血病のリスクもないと言えますので安心してください。
- ・放射性物質は時間の経過とともにどんどん少なくなっていくます。注射後約2時間で半分に減少し、4時間でさらに半分に減少します。放射線による周りの方々の被曝を防ぐためできるだけ検査当日の入込みへの外出もお控えください。検査翌日は問題ありません。

【撮影画像の読影について】

- ・得られた脳アミロイド画像は、日本核医学会が実施するアミロイドPET読影講習を修了した日本核医学会の核医学専門医が読影し、判定しています。

【同意について】

- ・検査当日、医師により上記検査内容の説明を行います。
充分納得した上で診察時、同意書にサインをお願いします。

